

## 吉田初三郎・作、大雄山最乗寺を描いた2種類の鳥瞰図

にいだ しゅういち  
新井田 秀一(学芸員)

### はじめに

生命の星・地球博物館では、「大正の広重」と称される吉田初三郎が描いた大雄山最乗寺周辺の鳥瞰図を2種類所蔵しています。

これらは、見た目の印象が大きく異なっています。その理由を探していきましょう。

### 鳥瞰図の紹介

吉田初三郎の描く鳥瞰図は、地域の姿を伝えるメディアとして関心が高まっています(昭文社編, 2021)。今回紹介するのは、どちらもタイトルは「道了大薩埵鎮座大雄山名所図絵」で、発行元は「大雄山最乗寺」です。一番わかりやすい違いは、発行年です。

1枚目は、大正11(1922)年12月5日に

発行されたものです(図1: 大正11年版)。

小田原～関本間に大雄山鉄道(現:伊豆箱根鉄道大雄山線、図1: A)が描かれています。開通は大正14(1925)年です。解説(裏)面には「目下計画中」とあり、松田駅から自動車か馬車を使用するように案内されていました。

2枚目は、「大雄山最乗寺境内交通名所御図絵」という内題が記されています(図2: 昭和5年版)。こちらは、奥付に発行年が記されていません。初三郎が解説(裏)面に記した「絵に添えて一筆」に「昭和5年 晩春」とあることから、この年(昭和5(1930)年)を発行年と推定しています。

この絵図には未開通の路線(ロープウェイ、丹那トンネル)が描かれています。このうちロープウェイ(図2: A)は、最乗寺

だけではなく、箱根・早雲山にある箱根別院への参詣のために計画されたとのことです。当初はケーブルカーを敷設する計画だったが変更したと、解説(裏)面の「参詣の順路」に書かれています。これは、昭和6(1931)年に制定された国立公園法に、箱根地域が16ヶ所の候補地の一つとされたことが影響していると考えられます。その後、箱根地域は、昭和11(1936)年に「富士箱根国立公園」として指定されました。

また、現実的な表現もあります。小田原駅周辺では、昭和6年の地形図(図3)と同じように描かれています。小田原電気鉄道(現: 箱根登山電車)が軌道線(路面電車)として現在の国道1号線の上を走り(図2: B、図3: A)、小田原駅前に直角に着いています。また、大雄山鉄道



図1. 道了大薩埵鎮座大雄山名所図絵(大正11年版) KPM-NZC000042.



図2. 道了大薩埵鎮座大雄山名所図絵 内題: 大雄山最乗寺境内交通名所御図絵(昭和5年版) KPM-NZC000043.



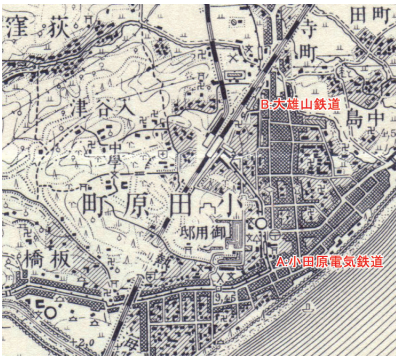


図3. 5万分の1地形図「小田原」昭和6年発行から小田原駅拡大(1.2倍).

は小田原駅まで接続できずに、離れたところに駅を設けています(図2: C、図3: B)。

### 鳥瞰方向と地形の表現について

両図とも最乗寺境内をクローズアップしていますが、背景として描かれている地形から判断すると、鳥瞰している方向が全く異なっていることが分かりました。

CGによる鳥瞰図の作成によって鳥瞰方向を推定(新井田・武田, 2024)する

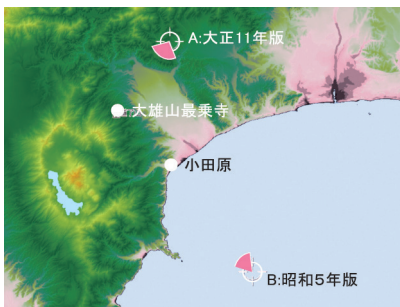


図4. 大雄山最乗寺を中心とした鳥瞰方向.

と、大正11年版は、北東側から見ているようです(図4: A、扇型で方向と画角を示す)。箱根外輪山の北東斜面に最乗寺を拡大して描き、そこから流れ出る大雄川やその本流となる狩川と関本丘陵を挟んで酒匂川の流れを強調した足柄平野があります。地形の起伏表現は弱く、色彩的にも単調です。

最左部となる大磯丘陵から相模湾沿岸の景観はかなり湾曲していて、三浦半島や房総半島まで描いています。鳥瞰位置を推定すると、偶然かもしれませんが最乗寺上空からの展望に似ていました(図5)。

昭和5年版は、最乗寺をさらに拡大しています。当時計画されていた前述のロープウェイ線や交通の拠点である小田原市街を描くために、南東側からの高所から覗き込むように見えています(図4: B)。しかし、富士山・箱根火山・伊豆半島の位置関係からの判断では、三浦半島など東側から見ていることになり、全体を一点

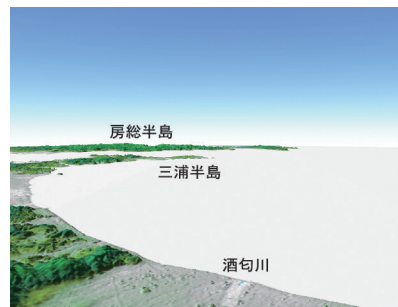


図5. 最乗寺上空2,000 mから見た東南東方向.

から見ているような視点推定は困難です。

地形の起伏表現としては、大正11年版よりも彩色豊かになっています。例えば、早川の溪谷(図2: D)では、流れの中にある岩石や溪谷斜面の色彩表現によって、急な流れを表現しています。

### まとめ

同じ作者が同じ題材を描いていても、盛り込まれる情報によってかなり異なるイメージの絵図になることが分かりました。描かれている名所旧跡などの調査については、今後も進めていきたいと考えています。

### おわりに

2025年夏に特別展「初三郎式、かながわの描き方 ―地形表現の科学(仮称)―」を開催します。ここで紹介しきれなかった解説(裏)面も紹介予定です。

なお、鳥瞰図に関する研究は、JSPS 科研費23K00965の助成を受けて実施しました。

### 参考文献

- 昭文社編, 岡田直解説 2021. 『吉田初三郎 鳥瞰図集』昭文社.  
新井田秀一・武田周一郎 2024. 吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」の構図をCGで再現する. 日本地図学会2024年度定期大会予稿集.

